

## 岩手県第 77 回原状回復対策協議会資料

### 資料 2 ワーキンググループの活動状況について



## ワーキンググループの活動状況について

### 1 概況

今年度第1回目の会合を令和元年9月2日（月）に開催し、普及啓発活動、植栽試験及び現場土地の利活用について、これまでの検討状況の確認及び今後の取組の方向性の整理を行った。

### 2 普及啓発活動関連

#### (1) 出前授業の実施

##### ア 概要

- ・第1回目 6月7日（金） 福岡高等学校1年生 145名
- ・第2回目（予定） 9月25日（水） 福岡工業高等学校1年生 48名

##### イ 実施内容及び結果

実施内容については昨年度と同様に、平成29年度に作成したDVDの視聴と事案を担当した元県職員からの講義を行った。

福岡高等学校での受講者に対し実施したアンケートの内容及び結果は、次のとおりである。9割以上の生徒が内容を評価する一方、9割近くの生徒が不法投棄事案を知らないと回答しており、取組を継続していく必要がある。

##### 問1：県境不法投棄問題を知っていましたか。

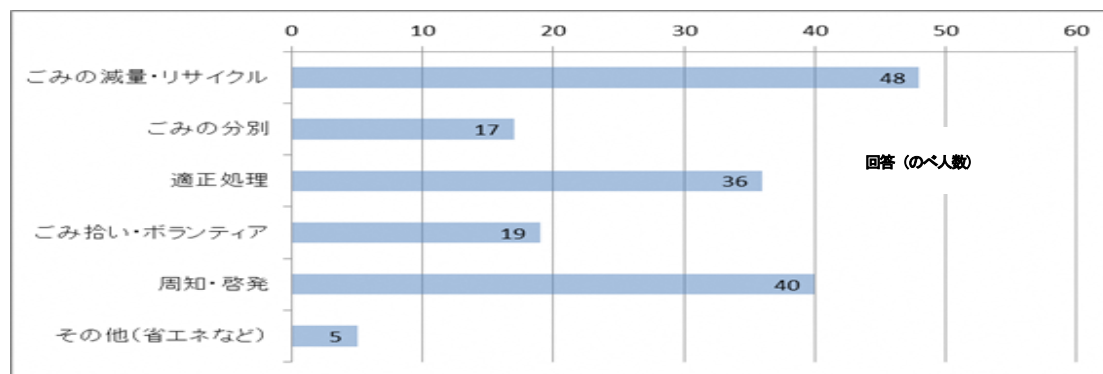
- よく知っていた … 3名（3%）
- 聞いたことがあった … 11名（10%）
- 全く知らなかった … 99名（87%）



##### 問2：授業内容はいかがでしたか。

	DVDの内容	講義内容
非常に良かった	74名（60%）	84名（69%）
良かった	44名（36%）	35名（29%）
普通	5名（4%）	2名（2%）

##### 問3：環境を守り、次の世代に引き継ぐため、今、私たちができることは何だと思えますか。



##### 主な感想・意見

- ・身近に起きた事なのに知らなかった。将来に同じ過ちが起きないように意識していきたい。
- ・小学生の時に現場を見に行く機会があるが、今はごみが処理されたことを知って安心した。
- ・首都圏からのごみで地元環境が大きく壊されていたと知ってとても驚いた。

- ・住みやすい環境を守るため自分たちに何ができるかを考えて行動していきたい。
- ・このままゴミを子どもたちに残してはいけないという言葉がとても印象に残っている。不法投棄をする人がいることはとても悲しいことだ。

## (2) カシオペア環境フェスティバルでのパネル展示

ア 開催日時及び場所 令和元年7月27日(土) 10:00~15:00 二戸市シビックセンター

イ 来場者数 小学生を中心とする親子連れ 約300名

ウ 主な内容 エコキャラコンテスト展覧会・表彰式、パネル展示による環境活動の紹介  
環境講演会、ネイチャーゲーム、県境産廃DVD上映会 など

・講演会場の様子



・パネル展示



## 3 植栽試験関連

### (1) 生育状況

今年度については、平成30年度に植えた苗木の育成を行っており、5月以降概ね月に1回程度の割合で除草と施肥を行うとともに、病虫害防除のため薬剤散布を行った。8月末時点での樹種別・土壌別の生存率は次のとおりとなっている。

土壌\樹種	ウルシ	アカマツ	ミズナラ	計
改良土壌	100% (63/63)	82.5% (52/63)	85.7% (54/63)	89.4% (169/189)
非改良土壌	7.1% (3/42)	73.8% (31/42)	88.1% (37/42)	56.3% (71/126)
計	62.9% (66/105)	79.0% (83/105)	86.7% (91/105)	76.2% (240/315)

### (2) 評価及び今後の方向性

ア ウルシに関しては、透水性が確保された土壌においては一定の成長を見せている。地形や土壌条件によっては、現場においてもある程度の成長が期待できるのではないかと考えられる。

イ アカマツ及びミズナラについては、土壌改良の有無による生育率の大きな違いは見られない。ただし、成長の度合いは改良土壌の方が上回っている。元々の植生に近いこれらの樹種に関しては、人の手によらない植生回復も期待できる。

ウ 現時点ではウルシの成長が盛んであるが、これはアカマツ及びミズナラに比べてウルシの寿命が元々短く、相対的に成長が早い樹種であることが一番の理由であると考えられる。今後は、現地の強風や降雪による倒木やウサギ、カモシカ等による食害に留意する必要がある。

(3) 改良地区生育状況写真（参考）

①H30. 5 植樹1か月後



②H30. 8 土壤改良地区



③H30. 12 積雪直後



④H31. 2 約40センチの積雪



⑤R 1. 5 施肥時



⑥R 1. 8 2回目施肥後



⑦R 1. 9 直近の生育状況

ウルシ 約180センチ

アカマツ 約50センチ

ミズナラ 約70センチ



4 現場土地の利活用関連

これまで検討ワーキングでは、不法投棄現場の利活用策に関し、森林再生、花畑、イベント会場及びエネルギー産業誘致の4つの方向性を提案してきた。事案の風化が懸念される一方、植樹試験では跡地利活用に関し一定の可能性を見出すことができている、現場全体を概ね3つのエリアに区分して、別添イメージ図を参考にこれまで掲げてきた方向性が実現できないかを探っていくこととしたい。

エリア	取り組むテーマ	目指す方向性
東側エリア	自然力による植生回復	花畑・森林再生
中央部エリア	既存物件の利活用（地域産業への寄与）	エネルギー産業誘致
北西側エリア	事案伝承・森林再生	森林再生・イベント会場

# 岩手県側の不法投棄現場の概況及び利活用イメージ

